

# JR連合 政策News

第285号

2017年1月24日

## JR九州「豊肥本線」の被災現場を視察

～「平成28年熊本地震」の大きな爪痕と困難な復旧の取り組み状況を確認～

JR九州「豊肥本線」は、九州中部を横断し熊本～大分間を結ぶ地方交通線であるが、2016年4月に発生した「平成28年熊本地震」により極めて甚大な被害を受けた路線である。特にその沿線では「立野駅～赤水駅間」の大規模斜面崩壊（土砂流入等）をはじめ、落石や軌道変状、駅舎・トンネル・橋梁等の鉄道施設の損壊など、多くの被害が発生した。また更には、その後同年6月に発生した大雨によって同沿線の被害はいっそう拡大した。

「平成28年熊本地震」の発生後、JR連合は労働組合の立場から加盟単組とともに、同エリアの復興支援や組合員・家族に対するお見舞いとしての救援カンパ活動に取り組むとともに、JR九州等が受けた鉄道被害からの復旧やJR貨物の「がれき輸送」などに関して、連合・交運労協とも連携を図りつつ政府に対して復旧に向けた支援を強く求めてきた。

豊肥本線の大規模斜面崩壊エリア（立野駅～赤水駅間）の交通については、その被害の甚大さに鑑み、政府が当該エリアの鉄道復旧に向けた支援として、砂防事業や国道の復旧作業と一体的に取り扱うこととされており、また南阿蘇鉄道の復旧に向けては鉄道軌道整備法の適用をはじめとする財政支援等が検討されている（JR九州は現行制度上‘適用対象外’であり、それも課題）。一方で、いまだに熊本県を中心に余震が断続的に発生している中で、復旧作業は思うように進んでいないのが現状である。同年7月9日には、阿蘇駅以东（大分方面）については、JR九州労使の懸命の復旧作業によって開通に至っているが、東西の通勤・通学をはじめとする地域住民の移動手段でもあり阿蘇地区の観光手段としての豊肥本線は、「肥後大津駅～阿蘇駅間」で寸断されたままとっている。



▲大規模斜面崩壊箇所の状況（立野～赤水駅間）  
2017年1月に入り有人の工事作業が着手された。



▲現地「一時避難所」に設置された解説パネル

こうした中、1月17日JR連合は、JR九州労組中央本部とともに現地視察を行った。豊肥本線の軌道が敷設されていた箇所は工事用道路として整備されており、現地の往来に利用した。

最初に、立野駅～赤水駅間の大規模斜面崩壊によって鉄道・道路・南阿蘇大橋が寸断された箇所を視察した（1つ目の写真）。

同箇所は、縦に約700m、横に約200mに及ぶ大規模な斜面崩壊が起きた現場であり、斜面に不安定な土砂が存在し、多くのクラック（地割れ）が確認されており、被害発生以降は危険な

状況が続いていた。そのため無人で操縦できる建設機械が投入され工事作業が行われてきていたが、本年（2017年）に入り、ようやく有人工事作業に着手されたところである。当該箇所は斜面中腹にはこの間の工事によって、すでに落石や不安定土砂の崩落対策（二次災害防止対策）として土留盛土工が施され、今後は斜面上部の法面対策工が施される計画となっているが、具体的で詳細な工法・作業内容は未決定であるとのことであった。当該砂防事業が進展しない限り、下部の鉄道や道路の具体的な復旧作業には着手できない状況が続く。

平行して進められている作業として、阿蘇大橋（国道325号）については黒川の元々の箇所から数百メートル下流において架け直すことが決定され、また国道57号については北側の山間部をトンネルでくりぬく形で迂回ルートを建設することが決定され、ともに建設工事作業が着手されているが、今後も多大なる時間を要する見込みとなっている。

また、昨年6月に発生した大雨を受けて、周辺の山間部では上述の大規模斜面崩壊現場以外にも多数の斜面崩壊・土砂流入等が発生しており、地方自治体による砂防事業や復旧に向けた予算措置～工事に向けた準備が行われているとのことであった。おびただしい数の危険箇所が存在しており、地震や大雨等の自然災害の爪痕の深さを痛感した。今後は、山林上部なども含めた全面復旧に向けては相当な期間・労力・費用を要すると考えられ、政府や地方自治体による復旧作業の進捗とさらなる連携が求められる。

JR連合はJR責任産別として、大規模災害で甚大な被害を受けた地方ローカル線の復旧に向けては、とりわけ鉄道事業における営業収支が赤字である経営基盤の脆弱な企業を主たる対象とした支援スキームである「鉄道軌道整備法」について、適用条件緩和と公的補助の拡充等、支援の強化を政治・行政等に強く求める取り組みを行ってきているが、利用者のためにも、今後も継続的な活動を展開していく必要性を強く痛感した。

JR九州会社は昨年10月に株式上場・完全民営化を果たしたが、自然災害の猛威に今後も高頻度で晒される中で、広大なエリアの鉄道網を維持・発展させ、地域社会の発展に貢献し続けるという使命は極めて大切で重い。JR連合は、こうした状況を踏まえ、そして将来を見据えて、JR九州労組や各加盟単組はもとより、連合や交運労協とも連携をさらに深め、地域公共交通の在り方やその維持・発展に向けた公的支援スキームのあるべき姿について、既存の枠組みにとらわれず政治・行政や世の中へ訴える活動を継続的に行っていく。



▲ JR九州提供資料：斜面崩壊箇所（黄色＝地震後、赤色＝大雨後）



▲ 多くの斜面崩壊状況（一部）；手つかずの箇所が多くある



▲ 斜面崩壊箇所の1つ：軌道も含め周辺は土砂等で覆われたまま

以上